

## 世界一の教室を 実現しようじゃないか。



中村伊知哉 (なかむら いちや)

慶応義塾大学大学院教授、デジタル教科書教材協議会副会長、デジタルサイネージコンソーシアム理事長、NPO法人CANVAS副理事長、融合研究所代表理事などを兼務。

Alan・ケイの言葉に「未来を予測する最善の方法は、それを発明することだ」というものがありますが、我々もデジタルの力で新しい教育環境を発明し創造していかなければなりません。

例えば、「どこでもドア」があって100年前の外科医が現代にやってきたら医療環境の違いに立ち尽くすかもしれませんが、100年前の先生が教室にやってきたらそのまま授業を始めるでしょう。それほど長い間、学校教室の環境も教授スタイルも変わっていないのです。家にパソコンもゲーム機もケータイもあるのに、教室に持ち込んではいけません。いつの間にか家よりも学校が遅れた場所になってしまっています。これを逆転させ、世界一の教室を実現しようじゃありませんか。

その第一歩として、デジタル教科書教材協議会 (DiTT) という民間の団体を発足させました。目標は全国の小・中学生1000

万人に1人1台のデジタル端末を配布、超高速無線LANの整備を100%にすることです。日本のデジタル機器の活用やICT教育が遅れているのはもはや議論の余地のないところでは。

政府もIT戦略会議の提言や知的財産推進計画でデジタル教科書推進を決めています。2020年には1人1台の導入を閣議決定しています。しかし、世界に目を向ければ2001年に我々のグループ (MITメディア・ラボ) が設計した100ドルパソコンはすでに35カ国130万人に利用されています。お隣の韓国では2013年に子どもがタブレットを使えるように法律まで変えてしまいました。日本は7年遅れですが、それでは遅過ぎるということで協議会としては5年前倒しの2015年までに達成すべく活動しています。やる気のある人たちと協力して日本の子どもの未来のために進んでいきたいと思っています。

Mac Fan

2012.8A号

P85